



## 『変わる時代に変わらぬ心の支え』

一般社団法人福岡市医師会 会長  
**平田 泰彦**  
(福岡いのちの電話後援会 理事)



近年、技術の革新的な進歩により、人びとの生活は格段に便利になりましたが、一方でその進歩についていけず、精神的に追い詰められ自ら命を絶つ、またはやり場のない怒りの矛先を他人に向けるといった、心を痛める事案や事件、犯罪が増え続けています。我々医療界でも2年前に大きなニュースになりましたが、大阪の心療内科クリニックでは、医師やスタッフ、治療で来院した患者さん26名が、自らも患者である犯人による放火で犠牲になるという痛ましい事件が発生しました。また、埼玉では在宅医療のため訪問した医師と理学療法士を患者家族が散弾銃で殺傷するという凶悪な事件も発生しました。これらの事件は決して許されるものではありませんが、昨今の対人関係におけるコミュニケーションや思い悩む人々の心の変化への気づきやサポートが不足していることが背景にあるのかもしれません。

また、事実無根、真意不明な悪意のある書き込みにより多くの方が被害を受けています。医療機関においても同様に、誤った情報やコミュニケーション不足によるカスタマーハラスメントが問題になっておりますが、特に、この3年に亘るコロナ禍で様々な事案が顕在化したと感じています。同じ医療従事者として心痛

ましい事件や犯罪が医療機関で起こることを未然に防ぐため、福岡市医師会では防犯・安全対策支援事業を立ち上げ、アドバイザーによる相談対応や出前講座等を会員医療機関向けに実施しています。

「福岡いのちの電話」は、生きる力を失いかげ、身近に相談相手がいない孤独な人達に対し、ボランティアの方々が相談相手となり、寄り添い、温かく見守ってこられ、その約40年の歩みに心から敬意を表します。

社会情勢の変化につれて、人々は様々な悩みを抱えるようになり、精神疾患を患う人の数は増加の一途を辿っています。福岡市においても、未来を担う青少年や働き盛り世代、お年寄りへの心のケアや自殺予防に対する取り組みは喫緊の課題となっています。

これからも、「福岡いのちの電話」が、尊い命の灯りをともす拠り所となりますことを願うとともに、我々は市民の健康と命を守る地域医師会として、この活動をサポートし続けていきたいと考えております。





## 『変わる時代に変わらぬ心の支え』

一般社団法人福岡市医師会 会長  
**平田 泰彦**  
(福岡いのちの電話後援会 理事)



近年、技術の革新的な進歩により、人びとの生活は格段に便利になりましたが、一方でその進歩についていけず、精神的に追い詰められ自ら命を絶つ、またはやり場のない怒りの矛先を他人に向けるといった、心を痛める事案や事件、犯罪が増え続けています。我々医療界でも2年前に大きなニュースになりましたが、大阪の心療内科クリニックでは、医師やスタッフ、治療で来院した患者さん26名が、自らも患者である犯人による放火で犠牲になるという痛ましい事件が発生しました。また、埼玉では在宅医療のため訪問した医師と理学療法士を患者家族が散弾銃で殺傷するという凶悪な事件も発生しました。これらの事件は決して許されるものではありませんが、昨今の対人関係におけるコミュニケーションや思い悩む人々の心の変化への気づきやサポートが不足していることが背景にあるのかもしれません。

また、事実無根、真意不明な悪意のある書き込みにより多くの方が被害を受けています。医療機関においても同様に、誤った情報やコミュニケーション不足によるカスタマーハラスメントが問題になっておりますが、特に、この3年に亘るコロナ禍で様々な事案が顕在化したと感じています。同じ医療従事者として心痛

ましい事件や犯罪が医療機関で起こることを未然に防ぐため、福岡市医師会では防犯・安全対策支援事業を立ち上げ、アドバイザーによる相談対応や出前講座等を会員医療機関向けに実施しています。

「福岡いのちの電話」は、生きる力を失いかげ、身近に相談相手がない孤独な人達に対し、ボランティアの方々が相談相手となり、寄り添い、温かく見守ってこられ、その約40年の歩みに心から敬意を表します。

社会情勢の変化につれて、人々は様々な悩みを抱えるようになり、精神疾患を患う人の数は増加の一途を辿っています。福岡市においても、未来を担う青少年や働き盛り世代、お年寄りへの心のケアや自殺予防に対する取り組みは喫緊の課題となっています。

これからも、「福岡いのちの電話」が、尊い命の灯りをともし拠り所となりますことを願うとともに、我々は市民の健康と命を守る地域医師会として、この活動をサポートし続けていきたいと考えております。





# 「いのちの電話から学んだこと」

## ～「いのちの電話」の50年～

今では、自殺などで著名人がお亡くなりになったときには、必ずといっていいほどテロップで「いのちの電話」の案内が流れます。一般の方々は「いのちの電話」は、自殺予防の団体と受け取っていらっしゃると思います。「いのちの電話」の50年の歴史を振り返って、これからも大事にしていけないといけない、最初に立ち上げられた方々の思いというものをお伝えしておこうと思います。

その歴史を見ていきますと、日本では戦後しばらくは、自分の体を売っていかないと生活できないという女性たちがいらした。当時、来日中のドイツ人宣教師ヘットキャンプさんは、同じ女性として同じ人間として、「どんなに苦しいだろう、どんな思いを抱いていらっしゃるだろう」とその女性たちの心を思いやられた。その女性の方たちの心が少しでも安らぐようと、直接会い語らっていらしたわけです。1964年開催の東京オリンピックのための再開発により、あるエリアでひと固まりで暮らし、これまで互いに接触し語らっていた女性たちが、バラバラに暮らすようになってきた。そういう中で、女性たちとも繋がっていないといけないという思いで、ヘットキャンプさんが思い出されたのが、ドイツのテレフォン・ゼール・ゾルゲ（魂を思いやる）電話相談活動です。これが日本でもできないかということで手を挙げられた。周りに集まっているご婦人方が、やりましょうということになりました。見捨てられた人、見捨てられた心への気遣いですね。思いやる心が、これを動かしました。

実は、最初から電話ではありません。電話相談活動をやろうという発想ではなかったのです。そうじゃなくて、あの女性たちがこのまま見捨てられてしまったらおかしい。そのためにはどういう手段があるかということで、ひとつの手段として電話相談というのを思いつかれたのです。これは『知恵』ですよ。『思いやる心』と『知恵』というのが繋がったわけです。

最初は海外の取り組みも参考にして活動の準備をし、「いのちの電話」は1971年に開局しました。当時の関係者や相談員の方が「いのちの電話の20年史」を書いていらっしゃいます。今の私達が悩んでいるいろんなことに対して、基本的な姿勢や構えを伝えてくれていると

思います。

1971年10月1日午前0時、東京で「いのちの電話」が動き始めました。遂にその時が現実になりました。これから何が起こるのか、私達は大きな冒険に挑むような気持ちでした。見も知らぬ、この私みたいな者に電話をかけてくれる人がいたら、私は感激して、一生懸命に会話するだろうと思います。何も言えないときはその気持ちをそのまま表せたら、それでもいいというような気がします。むしろ無理をしたりしないようにと願っています。（『いのちの共振れーいのちの電話20年史』掲載文より）

これは、誰かの相談を受けるという姿勢じゃないですよ。私でいいのでしょうか？と差し出している。これは、すこしオーバーですが、ある意味では捨て身ともいえますよね。

さて、電話相談をやってみると、医療関係の相談も思っていたより多い、ということで、医師の方々のボランティアによる土曜医療相談というのが始まった。同時に後援会が結成された。責任ある組織にしないといけない、ということで社会福祉法人化された。専門的な関わりが必要な方もおられ、小石川に心理面接室も一時期設けられた。「いのちの電話」はまず動いた。動きながらも、こういうところがまだ課題だなと思ったら、その課題に取り組んでいった。これはある意味ラグビーでいう、スクラムやモールみたいなものかもしれないですね。みんなで前へ！前へ！というやつでしょう。これが多分エネルギーだと思います。そのうちに、東京だけではなく、取り組みが北九州とか沖縄とか全国に広がっていきました。

「いのちの電話」が50年続いている。継続するこの力は何なのでしょう。先に上げた、『思いやる心』と『知恵』。知恵は単なる知識だけではなくて、自分がこれは大事だなと思ったものは、自分でできることはやる、ということ。それと、『学びの心』を加えて三つじゃないかなと思っています。

開局から6年経って、自殺予防の取り組みも1977年から始めております。「いのちの電話」にとって自殺者を減らすという視点はこれも大事です。しかし、自殺者を減らすというのは目的の一部に過ぎない。減らす



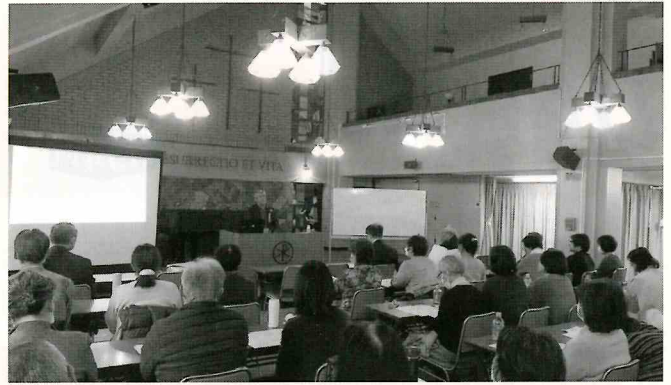


ために何が必要かと言ったときに、今まで生きてきた中で、何が一番自分を支えているのか、という問いかけをすることになりますよね。何があったから私達は生きてこられたのでしょうか？生きているのでしょうか？という問いかけです。

『善き出会い』。私はこれだと思っているのです。いろんな人や事と出会いがあるから今の自分がある、というのはつくづく思います。「いのちの電話」は、このように出会いという視点で理解する方が、内包する豊かなものが汲み取れる気がします。電話相談という役割意識を持たなくても、いい出会いになればいい。ということでしょう。

自分が持っている自分らしさというものを、出会いに向けていかないといけない。向けていくことが求められているということです。というのは自分の人生というのをもう一度振り返り、もう一度見てみる。どんな意味があったのかというのを、それを自分で汲み取っていく。その作業は継続的な学びだから、豊かにならないともったいないですよ。

「いのちの電話」の活動のその原点は何でしょう。私達も人生を生きていくときにいろんな困ったことがありますよね。それを乗り越えながら生きている。お互いに支え合うことも当たり前のことじゃないか、とい



うのが原点です。だから電話相談活動から出発してはいない、というのはちょっと心に留めてください。「いのちの電話」は豊かなものを持っています。この活動から何か汲み取ろうと思えば汲み取れます。専門的な働き、専門的な学びというのはその専門の枠のところだけ知っていればいい。そうじゃなくて、人としてどうなんだろう、というところが問われているのが、「いのちの電話」の活動かな、というふうに受け取っておかれるとよいと思います。

今日は「いのちの電話」の活動を私はこんな風に見ています、ということをお客様方にお伝えしました。少しでも皆様方の今後のご活動や日常生活で力水になればいいかなと思っています。

## 「末松渉先生のお話を聴いて」



末松先生は声の調子が穏やかで、お優しい印象を受けました。お声が耳に心地よく、お話の途中でつい、うとうとしそうになったことを白状しなければなりません(申し訳ありません)。そんな中でも末松先生のお考えになられる、いのちの電話のあり方をお話されていて、さらさらと話されていて先生の長い確かなご経験からのとても深い内容に、「掴みたい」「理解したい」と思いながらも掴みきれないもどかしさがあったのは私の未熟さゆえでしょう。ひとつ思うのは、私たち相談員に「電話での善き出会いを喜べる人であれ」と願っていらっしゃるかなという私なりの解釈です。もし純粋にそれだけでよいのだとしたら、このいのちの電話の活動が、もっとシンプルかつ尊いものになるのではと思いました。先生のお話を足掛かりに、「素の心で関わる」とはどういうことかを模索しつつ、これからも電話を受けていきたいと思っています。(N. H)

## < 1・3 > の話



何に見えますか？ 数字の13 またローマ字のBにも見える。

これは学んできたことで見えること、これがある方は妊婦の姿や顔に見えるとも声が聞こえました。どのように見えるのか、どのように聴こえるのか。

末松先生の言われていた言葉が思い出されます。「私みたいなものに電話をかけてくれる人がいたら私でいいでしょうか、これは、誰かの相談を受けるという姿勢じゃないですよ。私でよければと差し出している姿勢ですね」

たまたま研修会の前の方のやりとりで彼女は、こんな話を聴いていいのだろうか、私はこの場にいいのだろうか(切実な問い掛けでした！)。

改めて学びの大切なこともお聞きしましたが本当に大切なことは何だろうかと振り返ることのできた時間を与えられました。

私たち(相談ボランティア)はコーラーとこの時間今のこの時間を一緒にいることが大切なのでは？経験を積むこと、また学びが悪いことではないのですが「私でよければと差し出している姿勢」このような姿勢を続けられればと願っています。先生ありがとうございました。(M. F)



# リレー 随 想

第34回

福岡市子ども総合相談センター 所長

横内 法子

(福岡いのちの電話 評議員)



## 「言葉の力」

最近、世の中でたびたび目にする、耳にする言葉たち。「ヤングケアラー」「面前DV」「ハラスメント」「ダイバーシティ」「LGBTQ」などなど。まだ一般にはなじみが薄いかもしれませんし、支援者の間でも以前には口にすることも少なかったでしょう。それらの言葉が、産み出され、あるいは共有されてきたことにより、多様な人権を尊重する文化や、子ども、女性、マイノリティーへの理解や支援が、少しずつでも確実に変化、進展している実感があります。

昭和の時代から公務員として働いてきましたが、1986年施行の男女雇用機会均等法が浸透するまでは、女性が男性と同等に扱われないことが多くある職場環境に、そもそも何の疑問さえ感じていませんでした。男女平等やセクシャルハラスメント等の言葉の普及とともに、男女の扱いの違いの数々は、人権課題あるいは差別なのだとして理解されるようになり、それとともに職場から多くのハラスメントや差別が急速に消滅の方向に進んでいます。そして実は、2000年施行の児童虐待防止法以前には、虐待という言葉さえ、世間ではあまり使われていませんでした。さらに、2020年施行の改正児童虐待防止法では、親権者による体罰の禁止が明記されました。そういった

流れなのでしょうが、虐待通告に基づいて家庭訪問をすれば、「これはしつめた。何が悪い。」と大声をあげられることが少なくなかったものが、最近では、虐待や体罰はいけないとの理解が進んだのか、そんなこともずいぶん少なくなりました。問題のポイントを的確につかんだ言葉が生まれ、使われ、共有され、そして、文化が変わっていく。文化や意識の変革においての言葉の重要性を、あらためて相談の現場だけでなく、家庭や仕事などの日常生活の場でも実感しています。

いのちの電話のスタッフのみなさんが常々意識しておられるに違いない、言葉を丁寧に選ぶ、使う、ふさわしい言葉を考える、吟味する、作り出す、広める姿勢。そして、時代の移り変わりに伴う言葉やそれに付随する認知の変化。それらへの繊細な感覚を持ち続けることを、これからも大切にしていきたいと思います。今後どんな新しい言葉が生まれ共有されるのだろうか楽しみにも思うのですが、できれば生きていくうえでの励みになるようなポジティブな言葉がたくさん生まれてほしいなあと、子どもの福祉の現場から願うところです。

## 福岡いのちの電話

## 第50期 ボランティア募集

福岡いのちの電話ウェブサイトでも最新情報をチェックできます。  
アドレス：[www.f-inochi.org/bosyu](http://www.f-inochi.org/bosyu)

今年度の電話ボランティア、事業ボランティアの募集は5月1日からです。

関心のある方は事務局までご一報ください。募集要領が印刷でき次第お送りします。



## 2023年度自殺予防公開講座 「いのちをたいせつに」

桂 文我 氏(落語家)

3月20日(水)午後2時から、福岡市中央区のレソラホールで自殺予防公開講座を開催しました。三重県在住の上方落語家の桂文我氏をお招きし、「いのちをたいせつに」をテーマにお話をいただきました。

落語家ならではの驚きのエピソードの数々、「智恵のある声を出し!」との師匠の言葉、言葉には年輪があり智恵があるなど、色とりどりにいろいろな話をしていただき、思わず笑いながら、とにかく生きて行くことの大切さ、人とのつながりの大切さ、話すことの大切さなどを痛感する機会となりました。



### ● 理事長が福岡城東ライオンズクラブで卓話

1月25日(木)福岡城東ライオンズクラブの例会において、久保千春理事長が福岡いのちの電話の役割や相談実績、自殺の危険因子、こころや身体の声を聴くことなどについて話しました。同ライオンズクラブの寄附のご協力に対し、久保理事長(左)が宮本伸二会長に感謝状をお渡ししました。



### ● 生命保険協会から寄附贈呈

12月18日(月)、福岡いのちの電話事務局にて、生命保険協会様からご寄附を頂戴しました。2020年から続いているご厚志に感謝申し上げます。

(写真は、吉田剛士(生命保険協会)様(左)と金子事務局長です)



### ● 福岡桜ライオンズクラブから理事長に寄附金贈呈

2月20日(火)福岡桜ライオンズクラブの35周年記念式典が開催され、久保千春理事長に寄附金が贈呈されました。



# ご援助ありがとうございます

## 寄附感謝報告 2023年12月1日～2024年2月29日（敬称略・受付順）

上記の期間に次の方々からご支援を賜りました。感謝をもってご報告させていただきます。

\*このご寄附には所得税、県・市民税に関して寄附金控除が適用されます。  
また、福岡市個人市民税の寄附税額控除が受けられます。



### 千人会

吉野みえ子	10,000
(宗)本願寺派 託乗寺 北條憲昭	10,000
江上裕子	10,000
濱 孝明	10,000
雷音寺	10,000
(学)松原こひつじ幼稚園	20,000
(学)聖公学園草ヶ江幼稚園 園児一同	10,000
田島和義(福岡鶴城ライオンズクラブ)	10,000
日本聖公会 福岡聖パウロ教会	10,000
福島あい子	10,000
松尾慶孝	20,000
小深田信昭	10,000
宮崎宏之	10,000
(宗)泉林寺(轡水俊道)	10,000

### 一般寄附

カトリック笹丘教会	10,000
日本福音ルーテル久留米教会 女性会	2,000
西宗寺	5,000
田中幸彦	2,000
執行好子	10,660
中田菊子	3,000
福岡市民クリスマス実行委員会	10,000

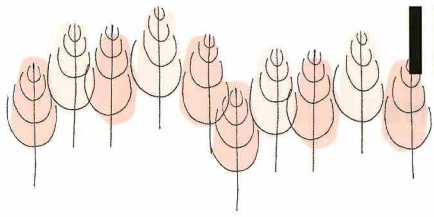
福岡聖パウロ教会 麦の会	5,000
(学)信愛学園 周船寺第二幼稚園	5,000
(一社)生命保険協会 福岡協会	50,000
匿名	10,000
匿名	10,000
山下奈保美	10,000
日本キリスト教会 福岡城南教会	5,000
福岡女学院中学校・高等学校	10,000
国際ソロプチミスト太宰府	50,000
植田治夫	3,000
喜多村弘宗	40,000
濱生正直	10,000
濱生牧恵	10,000
カトリック鳥栖教会	30,000
西南学院バプテスト教会	20,000
松井時子	100,000
日本基督教団 前原教会	5,000
在日大韓基督教会 福岡中央教会	10,000
久保千春	20,000
志鶴昭久	3,000
田中幸彦	3,000
福田美和	2,000
井原洋子	10,000
福岡有田バプテスト教会	5,000

小郡カトリック教会	15,000
牧 美子	3,000
カトリック南粕屋教会	5,000
(学)福岡女学院 キリスト教センター	36,593
日本基督教団 福岡城東橋教会	10,000
長住バプテスト教会(中條譲治)	11,000
石村重哉	3,000
田中幸彦	2,000
福岡桜ライオンズクラブ	100,000
金子英次	20,000
平尾バプテスト教会	20,000

### コカ・コーラ支援自販機

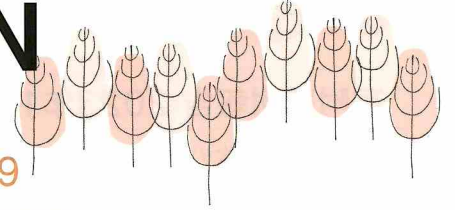
(財)恵愛団(九州大学病院内)	83,322
西部ガスホールディングス(株) (パピヨン24内)	21,039
西部ガスホールディングス(株) (油山研修所内)	1,090
西部ガス都市開発(株)(サンテ飯倉内)	4,584
西部ガス都市開発(株) (ニシコー千代ビル内)	7,880
(有)ダイキ通信工業(自社内)	24,243
(株)西日本新聞社(本社)	32,800
(株)西日本新聞プロダクツ(製作センター)	11,087
福岡県弁護士会(福岡県弁護士会館内)	6,572
JFEパイプライン(株)(自社内)	3,041





# INFORMATION

## インフォメーション



日誌 2023.12.1~2024.2.29

### 12月

- 3 ブラッシュアップ研修
- 5 相談活動運営委員会
- 6 第49期ボランティア養成講座  
(講師：楯林英晴氏)
- 7 福岡北ライオンズクラブ寄附金  
贈呈式
- 10 フリーダイヤル  
「自殺予防いのちの電話」
- 11 事業ボランティア「イオン黄色  
いレシートキャンペーン」参加
- 12 事業ボランティア「手づくり会」  
第9回理事会
- 13 受信資料検討班会
- 16 研修運営班会  
自主研修「ケースと私」
- 18 自主研修「紅葉の会」  
生命保険協会寄附金贈呈式
- 20 第49期ボランティア養成講座  
(講師：久保千春氏)  
事務局会議  
社会資源研究班会
- 22 第9回教育委員会、第1回拡大教  
育委員会

### 1月

- 6 第3回全体研修(講師：末松渉氏)

- 9 相談活動運営委員会  
事業ボランティア「手づくり会」
- 10 第49期ボランティア養成講座開  
(講師：松浦賢長氏)  
フリーダイヤル  
「自殺予防いのちの電話」  
受信資料検討班会
- 11 事業ボランティア「イオン黄色  
いレシートキャンペーン」参加
- 15 自主研修「紅葉の会」
- 16 第10回理事会
- 17 第2回スーパーバイザー会
- 19 事務局会議
- 23 事業ボランティア「手づくり会」  
事業ボランティア会例会
- 24 第10回教育委員会
- 25 第49期ボランティア養成講座  
(講師：吉野正氏)  
福岡城東ライオンズクラブ例会  
卓話(理事長)
- 29 広報班会

### 2月

- 2 朝日新聞厚生文化事業団寄附金  
贈呈式
- 4 「イオン黄色いレシートキャン  
ペーン」面談

- 6 相談活動運営委員会
- 7 第49期生養成講座  
(講師：笠原嘉治氏)
- 9 社会資源研究班会
- 10 フリーダイヤル  
「自殺予防いのちの電話」  
相談員集会
- 11 事業ボランティア「イオン黄色  
いレシートキャンペーン」参加
- 13 事業ボランティア「手づくり会」
- 16 共同募金会面談
- 17 電話ボランティア養成サポー  
ター会自主研修  
(講師：岡田健一氏)  
研修運営班会
- 19 自主研修「紅葉の会」
- 20 福岡桜ライオンクラブ記念式典  
(理事長)  
事務局会議
- 21 第49期生養成講座  
(講師：岡秀樹氏)  
受信資料検討班会
- 26 第11回理事会
- 27 事業ボランティア「手づくり会」
- 28 第11回教育委員会

## 【編】集【後】記【】

小津安二郎監督の幾つかの作品が、先頃テレビ放送されました。私は映画好きですが、スリルもサスペンスもない小津作品は敬遠してきました。戦死した息子の嫁が、自分たち老夫婦を気遣ってくれるのが有難くも心苦しいとか、娘が嫁に行くのは寂しいけど幸せになってほしい、とか。何故こんな物語が世界で評価されるのか不思議でした。

戦争の傷跡が誰にも残っていた時代、小津は「家族の日常」を淡々と描きます。死や別れ、老いや孤独、新たな旅立ちなどに、寄り添い気遣うしかできない市井の人々。控えめな登場人物の心の底にあるはずの、悲哀の感情は抑えられたまま進み、そして映画はあっけなく終わります。

観る者の抑えつけられた感情は出口を求め、鬱積した気持ちは映画が終わる頃にあふれはじめます。今回、「東京物語」や「晩春」では不覚にも涙を止められませんでした。海外から支持されるのは、孤独や老いの不安、家族の幸せを願う気持ちは、国や宗教などに関係なく普遍的なものだからでしょうか。

中国での残酷な戦争体験の闇を持つ、小津の深い想いに少し近づけたとしたら、私自身が歳を重ねた証であり、電話相談を通して、多くの闇や理不尽さを疑似体験したことと関係があるのかもしれない。

爛漫の春だというのに、愛する人との突然の別れをただ受け入れ、寄り添い、気遣うことしかできない人々は、ガザや能登など世界中で増え続けています。  
(H. I)

### 電話受付件数

2023年9月～2024年2月

受付件数	3,174件
延べ相談員数	1,737人
延べ受信時間	104,300分

### 発行所

〒810-0073 福岡市中央区舞鶴2-7-7  
社会福祉法人 福岡いのちの電話

TEL (092)713-4343・FAX (092)721-4343

ホームページアドレス

<http://www.f-inochi.org/>

発行人 久保 千春

編集人 伊東 望



この「会報」は共同募金の配分金で作成しています。